（様式1）　　平成　27　年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2871101180		
法人名	医療法人社団それいゆ会		
事業所名	グループホーム「かわも」		
所在地	宝塚市川面3丁目24番9号		
自己評価作成日	平成28年2月12日	評価結果市町村受理日	2016年　4月　28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kaigo.com/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西
所在地	川西市中央町8－8－104
訪問調査日	平成28年　3月　14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

JR宝塚駅からも、阪急宝塚駅からも近い場所にあり、ご家族やご友人がいつでも気軽に来訪出来ます。ホームのデイルームより宝塚阪急の建物や阪急電車がご覧になれて、入居の方々は慣れ親しんだ場所で過ごすことが、うれしいとお話をして下さいます。また、ご家族たちからは母体が医療法人なのでいざ病気になったり、何かの検査等しなければならない場合も安心ですと言われています。実際に夜間緊急でこだま病院に入院となった場合、ご家族がすぐに来院出来なくても、こちらで一応の対応をさせて頂ける準備は常にしております。事業所開所より、12年目でご入居の方々の平均年齢がさらに高くなられていますし、認知症も進んでおられます。日常生活においても安全安心を第一に掲げ、まごころのサービス・地域との結びつき・家族とのふれあい等理念に基づいて当たり前の暮らしを楽しんで頂けることを心がけていま

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は医療施設に併設され、地域住民からの周知も高く、医師、看護師との迅速な連携、緊急時の対応、疾病の早期発見が利用者、家族の安心に繋がっている。管理者の日頃からの職員への助言や職場環境向上への働きかけと、職員間のコミニュケーションが良好で、その結果、職員の定着率の高さとともに職員の意欲向上ともなっている。職員は、利用者一人ひとりに寄り添いながら、利用者のやりたい事を自己実現出来るよう支援している。利用者は、職員と気軽に買い物や散歩に出かけることで、喜びや役割を得、地域で穏やかに過ごしている。これまでの地域福祉の実績と基盤を活かし、職員の育成、地域資源としての役割、防災時での協力等、今後も更なる事業所の取り組みに期待したい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基にグループホームの理念を掲げ、日々安全安心の介護を行い、地域の行事に参加し交流を深めている。グループホームの理念は、目立つところに掲示しており、日々共有している。	職員は裏に事業所の4つの理念が記されている名札カードを携帯し、日々の実践の中で理念に立ち返る機会が多い。朝夕の申し送り時に理念を唱和し、共有を図っている。カンファレンス時にも理念を基に、「あたたかい介護」が実践されるよう話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り、それいゆ会の行事等にお互いに参加し合って交流している。近隣の園児が、敬老の日・クリスマスに来訪して一緒に歌を唄い、お遊戯をして親睦を図っている。	建物が地域の医療機関である為、地域知名度は高い。認知症カフェ、事業所の祭りや行事、幼稚園や学校等の地域交流が行われている。多様な地域ボランティアの受け入れが、利用者の活動支援へ繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催の認知症サポーター事業に協力している。診療所の外来患者様が認知症の疑いがある場合、家族に認知症の話や介護保険の話をして包括支援センターにも連絡を入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議にて、利用者へのケアについての報告や家族、介護保険課職員、知見者からの多数の意見を頂き今後の介護計画に活かしている	会議において、事業所が閉鎖的にならないよう、外部から見た意見を運営に活かしている。地域の高齢化や防災についても話し合う機会となっている。他事業所を招き、意見交換する事で、事故等の予防対策にも繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回出席を頂き、何か質問や報告がある場合は、市の担当者を訪ねている。管理者は介護保険認定審査会のメンバーであり、1か月に2回の審査会に出席し、判定会議に協力している。	事業所施設部会において担当者にサービスへの取り組みについて質問をおこない、質の向上に努めている。市が案内する外部研修等へ参加する事が職員のスキルアップとなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を自施設内研修にて理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、施設の立地上、JRの踏切や交通量の多い道路があり、家族に了解を頂いている。外出は入居者の希望ですぐ出れるようにしている。	日頃の利用者との関わりの中から、本人の様子や行動を把握し、外に出たい時には、一緒に付き添い見守っている。職員は、適切なケアについてカンファレンスで話し合い、意識を高めている。利用者の尊厳や法令について共有を図っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は職員の疲労やストレスに気を配り、利用者のケアに何か影響が出ていないか把握する。 虐待についての勉強会は、年間の自施設内研修で必ずおこなっている。	研修、カンファレンスで日常の言葉遣いや言葉かけが、無意識に利用者の行動を抑止しないように話し合っている。管理者は、日頃から職員の思いを聞き、ストレスに繋がらないよう働きかけている。勤務形態や休日を調整し、リフレッシュ出来る環境を作っている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に自立支援サービス・成年後見を利用されている方がある。権利擁護・成年後見の研修会を年1回行っている。	現在、制度を活用している利用者がおり、相談を繋ぎ、支援出来る体制がある。職員への研修は定期的に地域包括に依頼し、周知を図っている。運営推進会議で、成年後見制度についての講話を行い、家族や地域に向けて情報提供している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の時に時間をかけて説明している。契約前に契約書一式をお渡ししてゆっくり読んで頂いている。	重要事項説明書に基づき、希望や要望、医療面、リスク、終末期の対応等を丁寧に説明している。入居前には体験宿泊を活用し、環境に馴染んでもらっている。自宅へ訪問し、生活環境をアセスメントして事業所での生活環境に活かしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族が運営推進会議、家族会、訪問の機会に介護に対する意見や思いを伝えて下さったことを、運営に活かしている。前回の家族会にてくもん学習療法のお試しをさせてほしい、訪問の際にお寺参りに一緒に行ってほしい等あったのでくもんのお試しは行いお寺参りは計画中である。	運営推進会議、家族会等で様々な意見を聞き、意見を反映する機会を設けている。日頃、話が出来ない家族には電話で利用者の近況を伝えるとともに、意見を聞いている。利用者の要望は、会話の中から把握し、介護業務の向上に反映している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、事業所内会議にて、現場職員の意見・要望等を聞く機会を設け、職員の働く意欲の向上やホームの質の確保に繋げている。管理者は、各意見を法人代表者に伝え、より良い運営に反映している。	職員の業務に対しての意見を聴取し、介護方法や環境面の改善案を話し合っている。職員は積極的に意見を出し合いイベントの企画等を行い、利用者の活動を支援している。管理者は、職場責任者会議にて職員の意見を報告し、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	合同の親睦会やGHかわもの集まりにて職員たちの要望を聞く機会を作り、なるべく働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修は、職員に優先順位により順番に受けてもらっている。研修報告は、月1回の事業所会議にて行っている。事業所内研修は、各職員講師になりお互い勉強しあっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宝塚市介護事業者協会の施設部会で同業者との交流があり、職員の他施設の訪問や勉強会をして、サービスの向上に取り組んでいる。施設部会の中で他施設訪問の報告会を行う予定である。		

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なるべく利用者に寄り添い、言葉に耳を傾け、まず何を希望されるのか、心配事は何かあるのか等をお聞きして信頼関係を結ぶようにしている。日々の会話を続けることでよりいい関係になっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談の段階より、家族の希望、意見、困り事には耳を傾けより良い関係が作れるように勤めている。管理者・職員は、来訪時に必ず家族の要望や意見をお聞きすることにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始の時点で、本人と家族が一番望んでいることを出来る限り支援することに努めている。少し時間が経ってからの要望もあるので、後から再度お話しをする機会を持つようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人ができることはお願いして、一緒に家庭生活を過ごす仲間としての関係を築いている。心が通う介護を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と本人の関わりを大切にして、家族と協同して本人を見守り、支えていく関係を築いている。職員は家族と本人の架け橋になることもある。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が暮らして来た地域や友人とのふれあいをできるだけ継続し、関係がなくならないよう支援に努めている。近隣の方々、友人が来訪されるようにご家族にお願いしている。来訪者には大歓迎して、次回も来て頂きたいとお話ししている。	利用者の馴染みがある喫茶店や理美容室、商業施設等に同行し、これまでの生活習慣の継続を支援している。自宅に帰り家族との時間を過ごしたり、友人の来訪を受ける等、馴染みの関係が継続している。行きたい所、会いたい人等、個別の意向を把握して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性が合うか合わないか把握し、良い関係が生まれるように勤めている。時に職員が間に入り、良い関係づくりのお手伝いをしている。		

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・入所になり、サービス利用（契約）が終了しても、随時相談に乗ることをお話ししている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の暮らし方は、最初に本人、家族から聞き取り、希望に沿うようにしている。モニタリングにての聞き取りや日々の生活の中での会話や本人の様子を見て、こちらで察したことを職員で共有して行っている。	職員は利用者との共通の話題作りを心がけ、会話の中から思いや意向を把握している。利用者との会話を大切にして、その時々の思いを汲み取っている。意思表示が出来ない利用者には安心できる個別の声かけを実践し、その表情から読み取り支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家での過ごし方、以前のサービス利用の内容等これまでの暮らしぶりをなるべく多く情報収集して、こちらでのサービスの参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者によっては、ご自分の思いや希望などが伝えれない場合もあるので、利用者をよく知っている人たちに本人に成り代って考えて頂く様に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にどのように暮らしていきたいか意向を聞き、家族にもご意見を頂き、より良い介護計画を作成している。入所が長くなると、家族より職員のほうが入居者のことをよく分かっていることもあるので、家族の承諾のもと変化に応じて介護計画を作成している。	計画の作成・更新時には家族の参加を積極的に働きかけている。医療面のニーズから医師・PTの意見も取り入れた計画作成がなされている。モニタリングは担当者とユニットリーダーが定期的にカンファレンスで報告、し評価に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人ファイルに日々の様子、気づきは記入し、アセスメント、モニタリングを皆で共有しながら介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人暮らしのため、後見人と共に職員が支えるサービスに取り組んでいる。例えば、商品券をお持ちなので職員とデパートに季節のお洋服を買いに出かけたり、好きな雑誌を求めたりしている。		

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	囲碁のボランティアとの対局や近所の散歩仲間の来訪、近隣の喫茶への訪問等を支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけ医をお聞きし、今までの主治医をそのまま継続されている。主治医がおられない方は、納得の上でこちらの協力病院、診療所にかかられている。また、認知が進んだ場合、精神科受診の相談等行っている。	法人の病院に各診療科があるが、利用者の要望を優先している。特に精神科や脳外科、循環器科など専門科は、入所前のかかりつけ医を継続している。法人外の受診時は家族の付き添いを基本としているが、情報交換の必要な事例は職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所の看護職と常に情報交換できている。吸引器の使い方など必要に応じて教えを請い、便秘の解消についても指導して頂いている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同じ法人内の協力病院、診療所なので、入退院の情報交換や相談は常に行えている。入退院の際、家族がすぐ来院出来なくてもこちらで対応する手順がある。他の救急病院の場合で家族がいない方は、管理者・職員が付き添い、退院相談等をしている。	法人内の病院や診療所に入院する事例が多い。入退院時の情報交換や連携がスムーズに行われ、家族や利用者の精神的安心にもつながっている。法人外の病院に入院の際も度々見舞い、退院前カンファレンスに参加するなど、退院後の移行や早期退院に向けた支援を行っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化の場合や終末期の対応について話合いを行い、それぞれの希望を共有している。必要に応じて主治医とも面談を行っている。家族会の議題にも出して、緊急の場合に備えている。	入所時に重度化の場合に事業所としてできる限界について説明している。また、状態の変化に伴い、終末期の対応や、延命処置の希望についても医師を交えて話し合い、方向性を共有している。癌末期の利用者の疼痛コントロールを事業所で亡くなる直前まで継続し、法人の診療所へ移行した事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に数回事業所内にて、急変、事故発生時に対する研修・訓練を行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災訓練、事業所内での避難訓練等行っている。災害対策の事業所内研修開催、他での災害研修参加等を運営推進会議にて発表している。そして地域での協力支援について話し合いをしている。	同じ建物内の法人事業所と共同で、利用者参加のもと火災訓練を行っている。夜間想定訓練は実施していない。カーテン、布団は防炎機能で事業所内では煮炊きはしないなど、日頃から火災防止の意識が高い。施設部会で地震発性時の対応についても検討されている。	夜間想定訓練を早急に実施し、夜間災害時の具体的な課題と対策を明確化されることを期待したい。

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は、常に人生の先輩であり先生でもあるので、言葉使い、態度には職員全員が気をつけている。職員同士で気になる言葉・態度等あれば、接遇の研修を行い改善している。	定期的な接遇研修を実施し、職員が共通した認識で対応できるよう努めている。排泄誘導は、立ったタイミングでさりげなく勧めるなどの配慮をしている。居室は利用者により鍵をかける人や、ドアを開放している人など、個々の意向を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃行っていることは、まずいかがいたしましょうかとか？どうしましょうか？と何でも本人の希望を言える場を作っている。その中で本人に害が及ぶような時は、説明してお伝えしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望、意見、状態があるので、できるだけお聞きして、利用者本位にして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好きな洋服、帽子をできるだけご自分で選んで頂いている。選ばれた洋服には、必ず職員がお声がけするようにしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにしておられる方が多いので、配膳のお手伝い等お出来になる方はお手伝いしてもらう支援をしている。お料理の献立名を目立つところに貼り、季節の食材や料理名を言いながら、食卓の話題にしている。	調理されたものを事業所で盛り付けている。利用者により、職員と共に厨房からの食品の運搬や、配膳、後片付けなど主体性を尊重している。摂食状況により食べやすくする工夫やBGMにこだわり、楽しい雰囲気作りに努めているが、現在職員は共に食事はしていない。	利用者と共に職員も一緒に同じ食事を食べることで、会話が弾み、より食事が楽しくなる支援につながるのではないだろうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の協力の基、一人ひとりの栄養量が不足しないように支援している。管理栄養士が、お昼どき食べている入居者に感想を聞いて次の料理にいかしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行っている。毎週来られる訪問歯科の先生に相談もしている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンは、一人ひとり異なり、時間誘導の方、ご自分で行かれる方、個別ケアで対応している。日中と夜間と異なる場合が多いので、職員同士情報を共有している。	ポータブルトイレを居室に設置している利用者はいるが、日中はトイレ誘導している。個別の排泄パターンに合わせたトイレ誘導や、毎朝の陰部清拭を行い、清潔に保つことにより、リハビリパンツから布パンツに変更できた事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘には、管理栄養士に相談もし、野菜をできるだけ食べてもらうことや、体を動かすことや主治医にも相談して個々に対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご自分の希望や気分があり、一番風呂が良い方、あとでゆっくり入りたい方、それぞれに応じて入浴を楽しむ支援をしている。お風呂が苦手な方には、無理強いしないで少し時間を空けたり、次の日に声をかけることにしている。	週に3回の入浴日があるが、柔軟に対応している。状態により機械浴や個浴を利用し、残存機能に合わせて、自力でできることを支援している。入浴は利用者が職員とのお喋りを楽しみにし、職員にとっても利用者の思いや要望を聞ける良い時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝が習慣の方、うたた寝が気持ちの良い方、夜更かし気味の方それぞれに応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最低限飲んで頂きたい水分量以外は、お好きな時に飲めるようにポットに常時用意しており、またコップに入れたり希望に沿っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	囲碁、手芸、散歩、家事等その方の希望、思いをお聞きして支援に努めている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良く暖かい日は、なるべく戸外に出かけれるようにするか、ベランダで日光浴に努めている。お花見、紅葉がりは年間の行事として出かけるように支援している。２～３人での外出は近所の公園、スーパー等個別に対応している。	利便性の良い地に位置し、買物やホテルでのティータイムや外食を楽しみ、日常的に近所の公園に出かけている。利用者の要望で自宅に帰り荷物の片付けを手伝ったこともある。気分転換やリハビリも兼ねて、法人館内やベランダの散歩を行い、事業所外の職員や来客者との交流を楽しんでいる。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った時は、ご自分の財布からお金を出して使ってもらう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族・親戚からかかってくることが多く、手紙は今の入居者の方々はあまり書かれない。 くもん学習療法など文字を書く機会は多く取り入れるようにしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、利用者がよく集う場所となっている。家具の配置は、時々変えて居心地が良い場所にする工夫をしている。入口の手作りのネームプレートも季節ごとにかえている。デイルームの机・椅子の配置は新入居の方を迎えたら、必ず全職員でよく話し合い模様替えしている。	明るいリビングはゆったりとした空間に、車椅子で移動しやすいよう家具が配置がされている。利用者は畳敷きのスペースや長椅子など好みの場所で寛ぐことができる。居室入り口の手作りの表札や、職員の写真付きプロフィールを壁に貼るなど、利用者・家族にとって、分かりやすい配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れた場所にくつろげるところを工夫しているのと、ご自分でくつろげる場所を作られた場合はそのまま様子を見ている。いすをいつもと違う場所に置かれたりしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自好みのものを配置し、居心地の良い居室にしてもらう工夫をしている。入居時に他の方の部屋を参考に本人と家族が話をして、少しづつご自分好みのお部屋にしてもらっている。	各居室に洗面台、ベッド、収納棚が設置されている。利用者は好みのタンスや家族の写真、趣味の小物などを自由に持ち込み、それぞれに個性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の移動や、デイルームでの移動がご自分で行える、そしてできることはなるべく一人でして頂く工夫をして危なくないように見守りをする支援をしている。		